



2022年12月期第2四半期 決算説明資料

2022年8月
株式会社セレス（東証プライム市場：3696）





1. 会社概要
2. 連結決算の概要
3. 各事業の業績と戦略
4. APPENDIX



1. 会社概要

インターネットマーケティングを通じて 豊かな世界を実現する

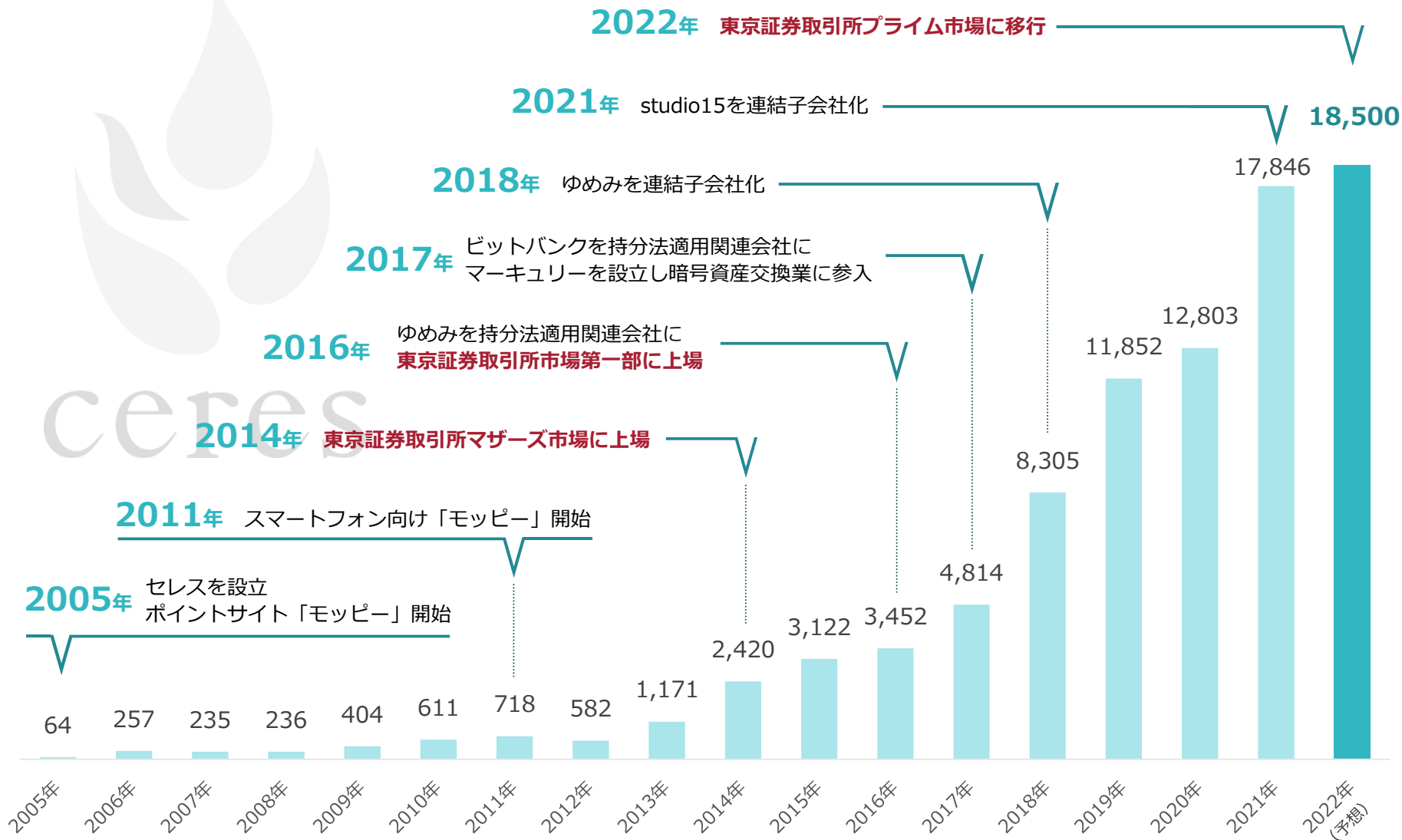
セレスは、社会インフラとなったインターネットを通して、
様々なマーケティングサービスを提供することにより、
豊かな社会生活の実現をはかります。

「トークンエコノミーを創造」



CERESとはギリシャ神話の「大地の女神」、「五穀豊穡の神」。
CERESはローマ名で、ギリシャ名はDemeter（デメテル）。

会社名	株式会社セレス
設立年月日	2005年1月28日
所在地	東京都世田谷区用賀四丁目10番1号 世田谷ビジネススクエア タワー24F
決算期	12月
資本金	19億7,943万円（2022年6月末現在）
代表者	代表取締役社長 都木 聡
従業員数（連結）	474名（2022年6月末／臨時雇用者除く）
事業内容	モバイルサービス事業 フィナンシャルサービス事業
連結子会社	株式会社マーキュリー、株式会社ディアナ、株式会社バックラス、 株式会社ラボル、studio15株式会社、株式会社ゆめみ
持分法適用関連会社	ビットバンク株式会社






※ 売上高は新収益認識基準等を遡及適用したと仮定して記載しております。

売上高 (単位: 百万円)





モバイルサービスはポイント・D2C・DXで構成

フィナンシャルサービスはブロックチェーン・ファクタリング・CVCで構成

モバイルサービス事業

ポイント		
D2C		
DX		

フィナンシャルサービス事業

ブロックチェーン		
オンラインファクタリング		
投資育成事業	CVC (コーポレートベンチャーキャピタル)	



2. 連結決算の概要



**2021年度以前の売上高は新収益認識基準等を遡及適用したと
仮定した数値で記載しております**

**セグメント内区分の変更により2021年度以前の
モバイルサービス事業の内訳を修正して記載しております**



- 売上高はモバイルサービス「モッピー」の増収も
フィナンシャルサービスで暗号資産の下落と株式
売却・アーンアウト剥落で前年同期比0.9%減の
9,598百万円
- 営業利益はCVC・ゆめみ・マーキュリーの減益を
カバーできず前年同期比64.3%減の597百万円
- 暗号資産の下落により各段階利益で計493百万円
の評価損を計上し四半期純利益はマイナスに

損益計算書の概要（第2四半期累計）

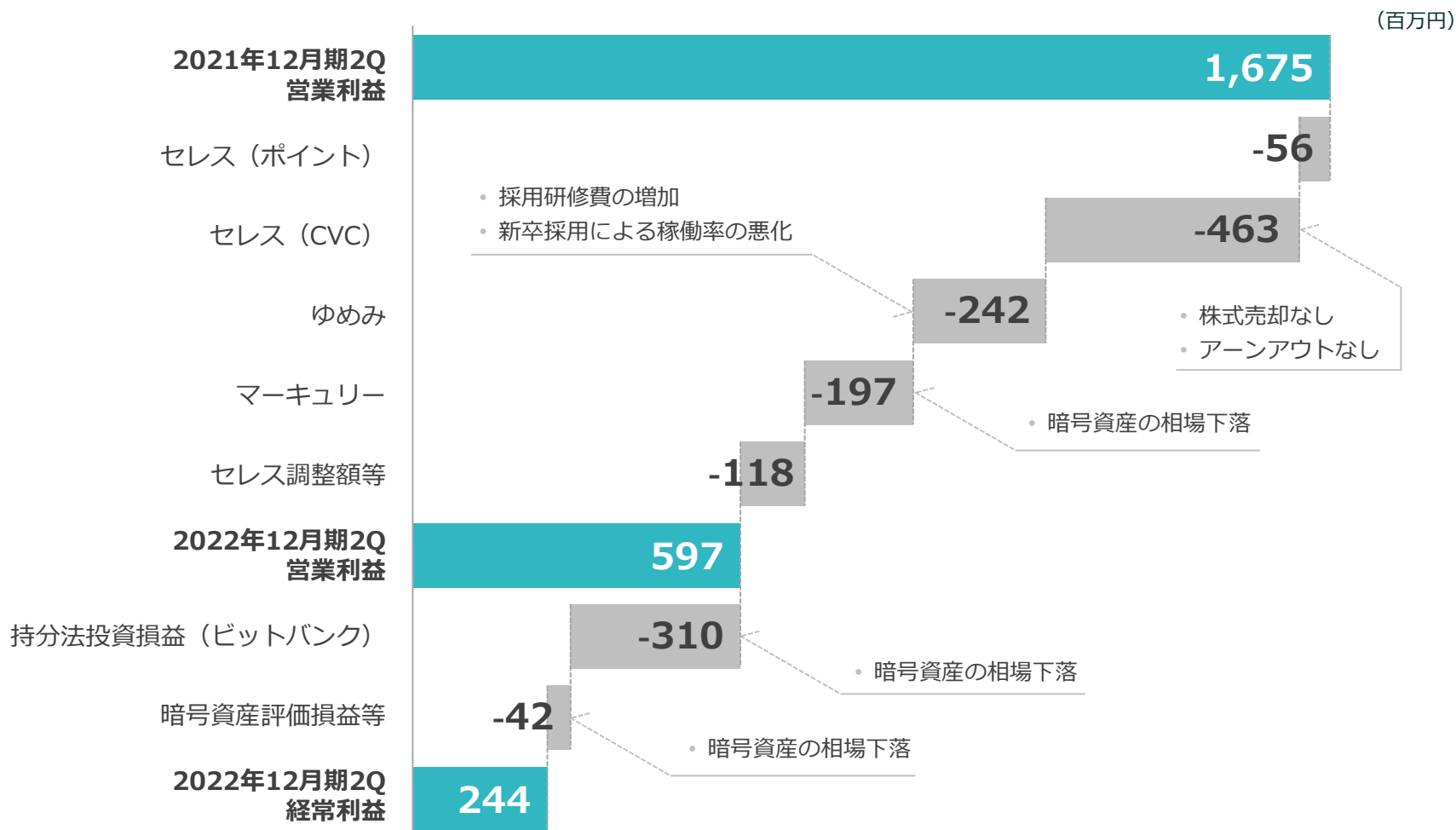
（単位：百万円）	2022年12月期 第2四半期累計	2021年12月期 第2四半期累計	前年同期比
売上高	9,598 (100.0%)	9,681 (100.0%)	-0.9%
売上総利益	3,747 (39.0%)	4,536 (46.9%)	-17.4%
販売費及び一般管理費	3,149 (32.8%)	2,861 (29.6%)	+10.1%
営業利益	597 (6.2%)	1,675 (17.3%)	-64.3%
経常利益	244 (2.5%)	2,627 (27.1%)	-90.7%
四半期純利益※1	-140 (-)	1,797 (18.6%)	-
EBITDA※2	459 (4.8%)	2,778 (28.7%)	-83.5%

※1 四半期純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益を示します。

※2 EBITDA = 税金等調整前四半期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 減損損失

営業利益の増減要因（第2四半期累計）

モッピーは増益も暗号資産の下落と株式売却・アーンアウトの剥落で営業減益
暗号資産の下落によりビットバンクの業績が悪化し経常利益は大幅減益

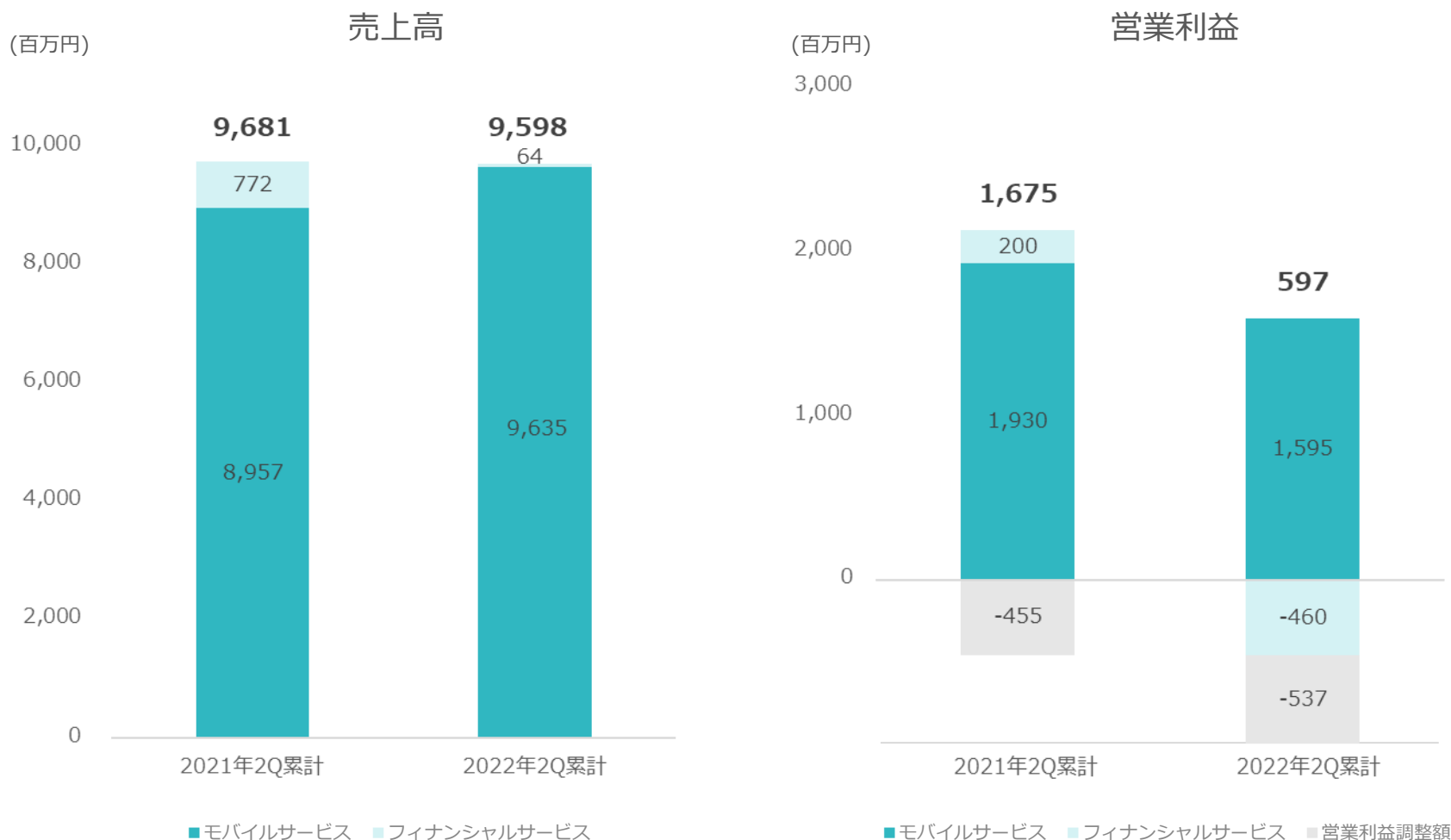


セグメント別売上高（第2四半期累計）

(単位：百万円)	売上高		営業利益
	2022年12月期 第2四半期累計	2021年12月期 第2四半期累計	2022年12月期 第2四半期累計
全社	9,598 YOY -0.9%	9,681	597
モバイルサービス事業	9,635 YOY +7.6%	8,957	1,595
ポイント	6,746 YOY -2.0%	6,886	1,482
D2C	970 YOY +130.7%	420	22
DX	2,042 YOY +9.2%	1,869	132
セグメント内売上高/調整額	-123 YOY -	-218	-42
フィナンシャルサービス事業	64 YOY -91.7%	772	-460
セグメント間売上高 /調整額	-100 YOY -	-48	-537

※ セグメント内の営業利益については前年同期を開示しておりません。

モバイルはモッピー増益もDXの減益が響き前年同期比17.3%の減益 フィナンシャルはマーキュリーの投資と株式売却の剥落で大幅な営業赤字



※ セグメント間の内部売上高又は振替高については、グラフに与える影響が軽微のため表記しておりません。

業績予想に対する進捗状況



2Q累計実績

【業績予想値】

売上高

95.9億円

進捗率
51.9%

185億円

営業利益

5.9億円

進捗率
42.7%

14億円

経常利益

2.4
億円

進捗率
12.2%

20億円

当期純利益

-1.4
億円

11億円

EBITDA

4.5億円

進捗率
19.1%

24億円

損益計算書の概要（第2四半期）

(単位：百万円)	第2四半期 (2022年4-6月)	前年同期 (2021年4-6月)	前年同期比	第1四半期 (2022年1-3月)	前四半期比
売上高	4,889 (100.0%)	4,761 (100.0%)	+2.7%	4,709 (100.0%)	+3.8%
売上総利益	1,790 (36.6%)	1,955 (41.1%)	-8.4%	1,956 (41.5%)	-8.5%
販売費及び 一般管理費	1,787 (36.6%)	1,328 (27.9%)	+34.5%	1,362 (28.9%)	+31.2%
営業利益	3 (0.1%)	626 (13.2%)	-99.4%	594 (12.6%)	-99.4%
経常利益	-413 (-)	774 (16.3%)	-	657 (14.0%)	-
四半期純利益※1	-530 (-)	457 (9.6%)	-	389 (8.3%)	-
EBITDA※2	-315 (-)	857 (18.0%)	-	774 (16.5%)	-

※1 四半期純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益を示します。

※2 EBITDA = 税金等調整前四半期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 減損損失

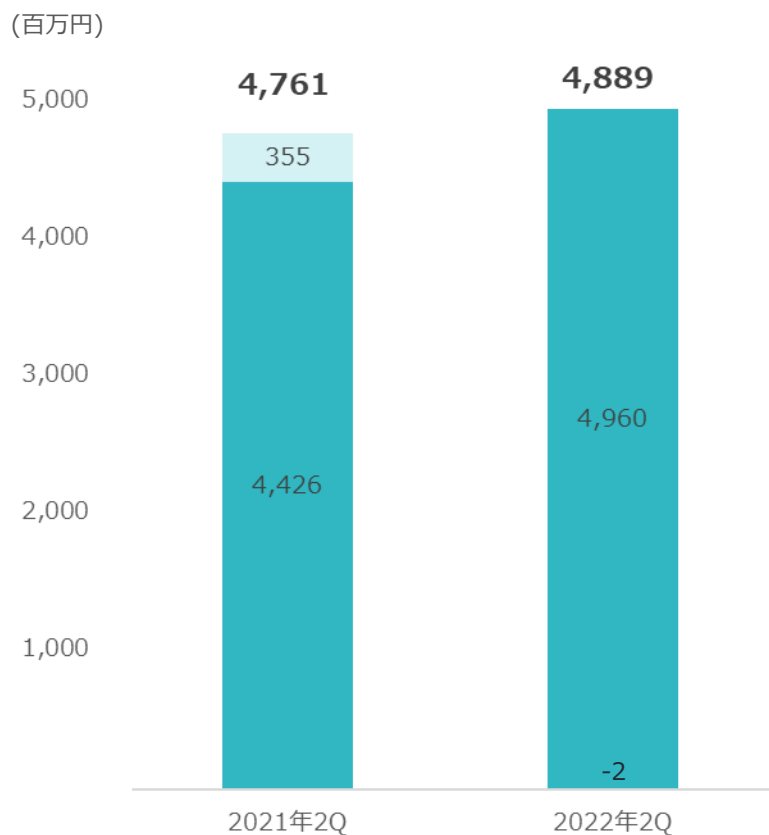
セグメント別売上高（第2四半期）

(単位：百万円)	売上高		営業利益
	第2四半期 (2022年4-6月)	前年同期 (2021年4-6月)	第2四半期 (2022年4-6月)
全社	4,889 YOY +2.7%	4,761	3
モバイルサービス事業	4,960 YOY +12.1%	4,426	588
ポイント	3,422 YOY +4.3%	3,281	595
D2C	540 YOY +150.5%	215	-14
DX	1,082 YOY +4.5%	1,035	39
セグメント内売上高/調整額	-84 YOY -	-106	-32
フィナンシャルサービス事業	-2 YOY -	355	-283
セグメント間売上高 /調整額	-68 YOY -	-20	-301

※ セグメント内の営業利益については前年同期を開示しておりません。

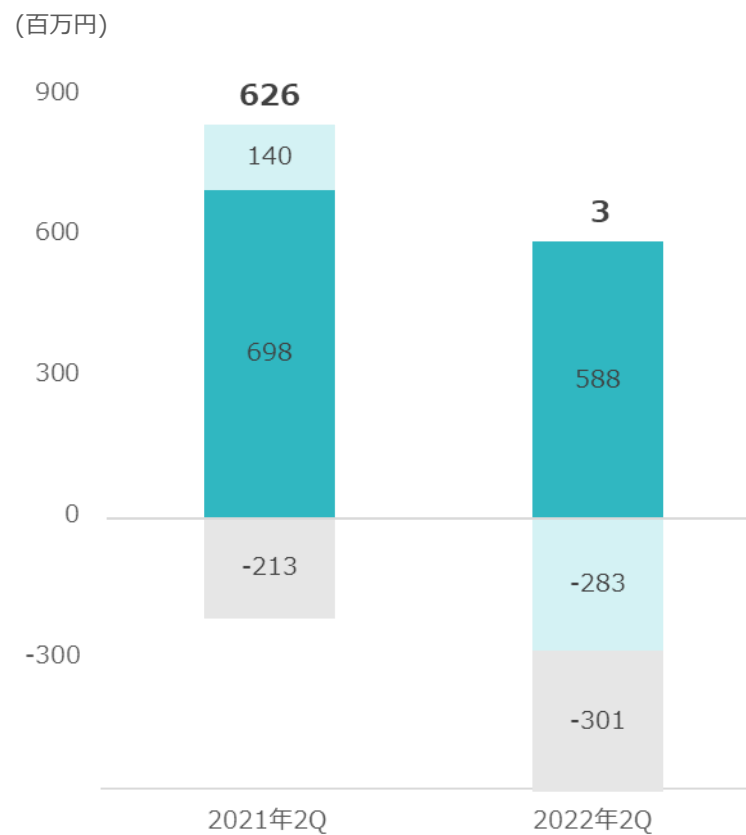
モバイルは12.1%の増収もDXの減益により前年同期比15.8%の減益
 フィナンシャルは暗号資産の下落とマーキュリーの投資により大幅な減益

売上高



■ モバイルサービス ■ フィナンシャルサービス

営業利益



■ モバイルサービス ■ フィナンシャルサービス ■ 営業利益調整額

※ セグメント間の内部売上高又は振替高については、グラフに与える影響が軽微のため表記しておりません。

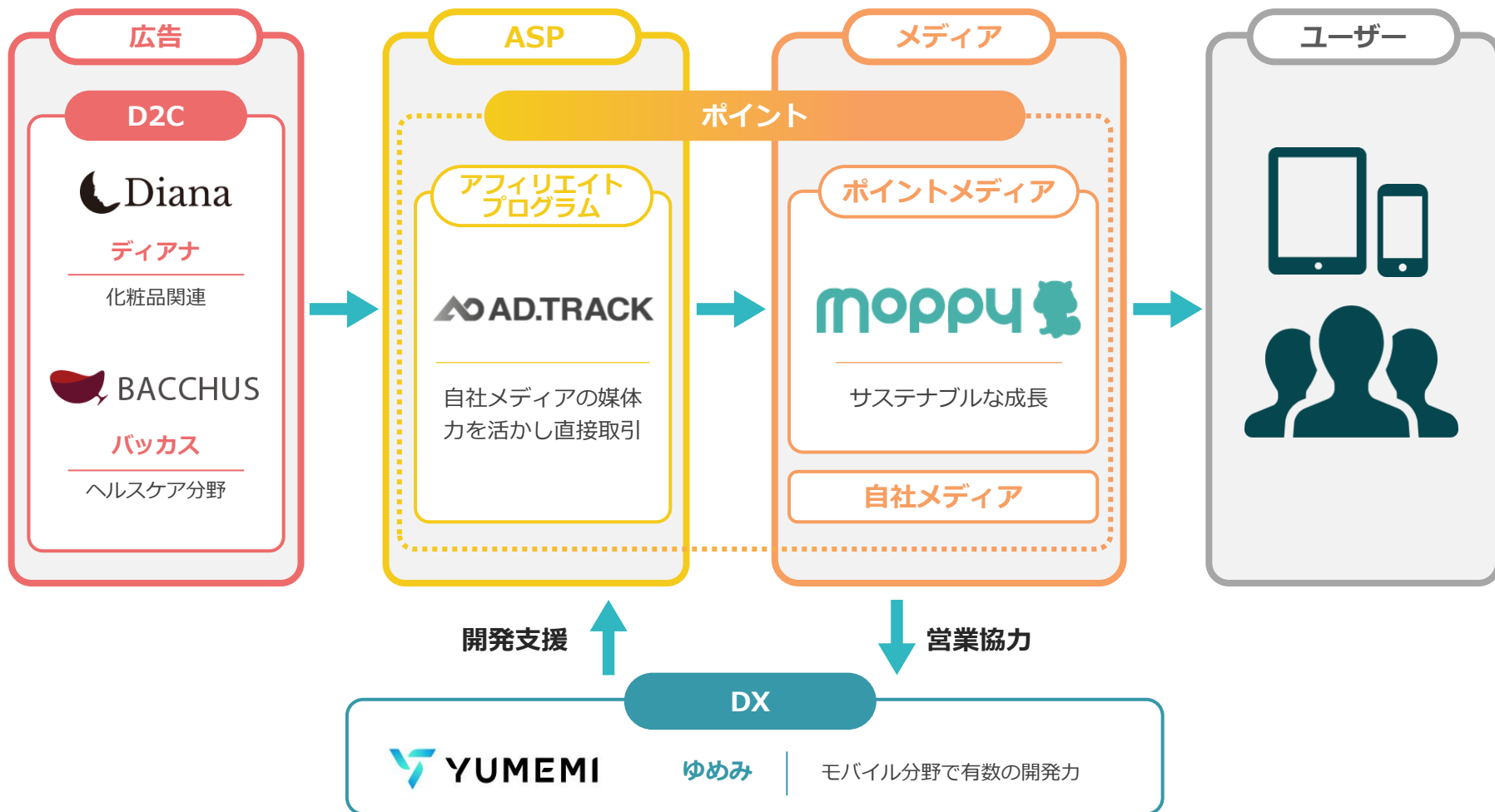
貸借対照表の概要

(単位：百万円)		2022年12月期 第2四半期末	2021年12月期 期末	前年増減額	主な要因
流動資産		13,738 (63.3%)	13,163 (65.1%)	+575	売掛金 +523 営業投資有価証券 +208 現金及び預金 -531
	固定資産	7,958 (36.7%)	7,071 (34.9%)	+887	のれん +811 投資有価証券 +182 関係会社株式 -312
資産合計		21,697 (100.0%)	20,234 (100.0%)	+1,462	
流動負債		10,110 (46.6%)	8,924 (44.1%)	+1,186	短期借入金 +1,000
	固定負債	2,266 (10.4%)	1,490 (7.4%)	+776	長期借入金 +791
負債合計		12,377 (57.0%)	10,414 (51.5%)	+1,962	
純資産合計		9,319 (43.0%)	9,819 (48.5%)	-500	四半期純利益 -140 配当金 -449
負債・純資産合計		21,697 (100.0%)	20,234 (100.0%)	+1,462	

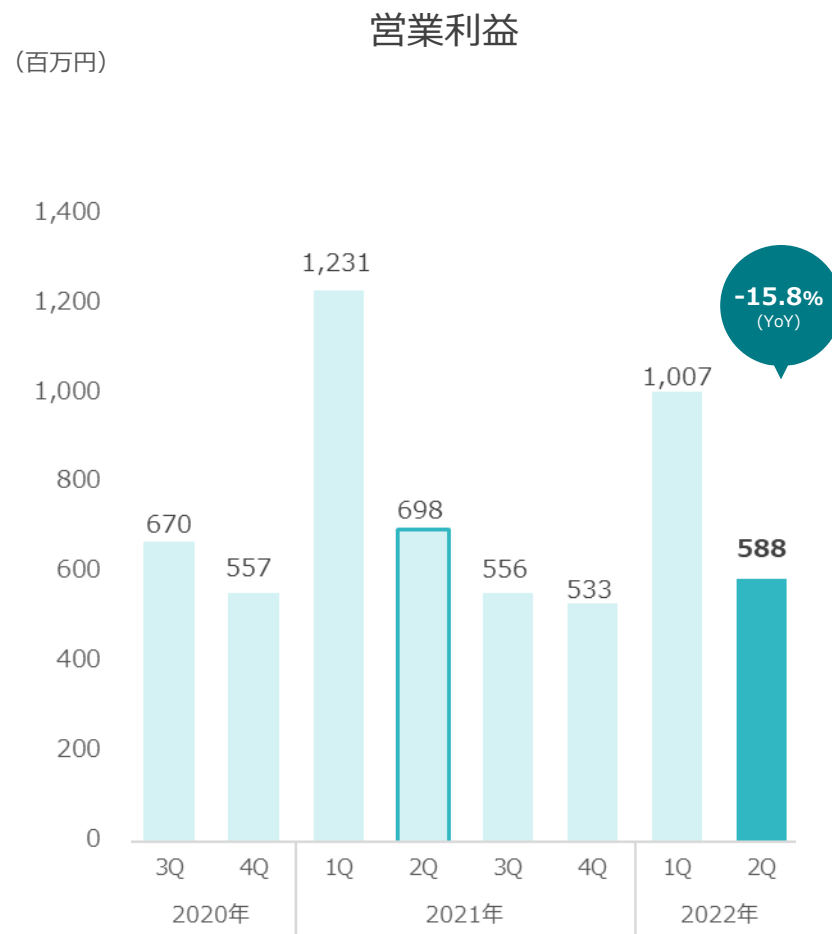
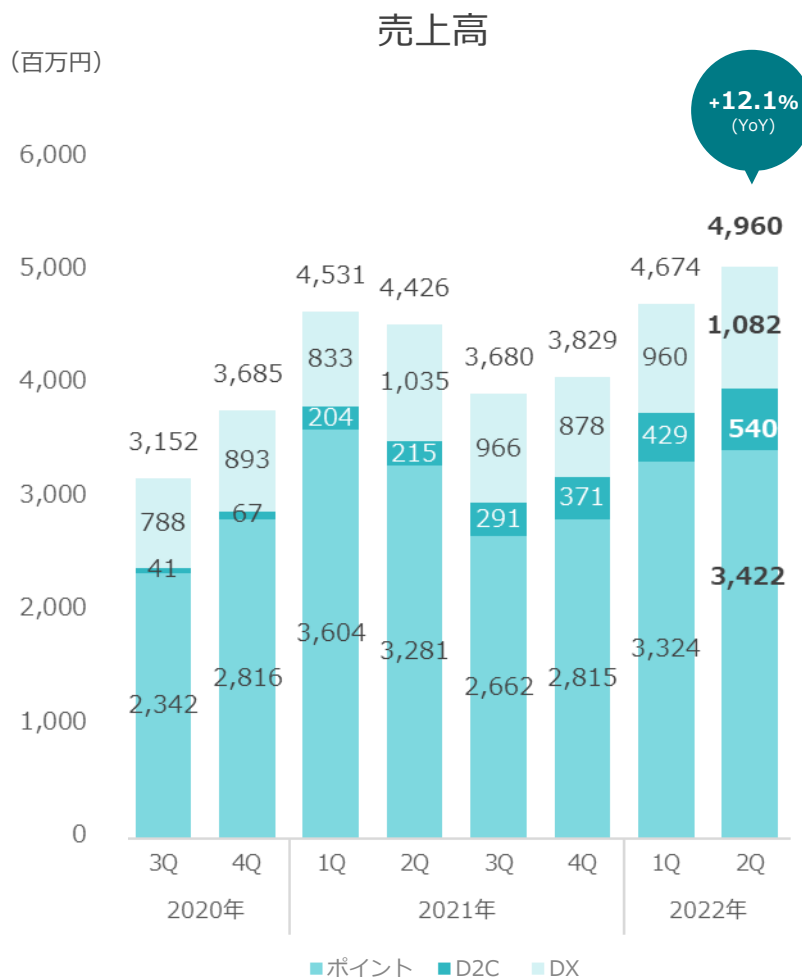


3. 各事業の業績と戦略

モッピー・アドトラック・D2Cの相互連携でシナジーを創出

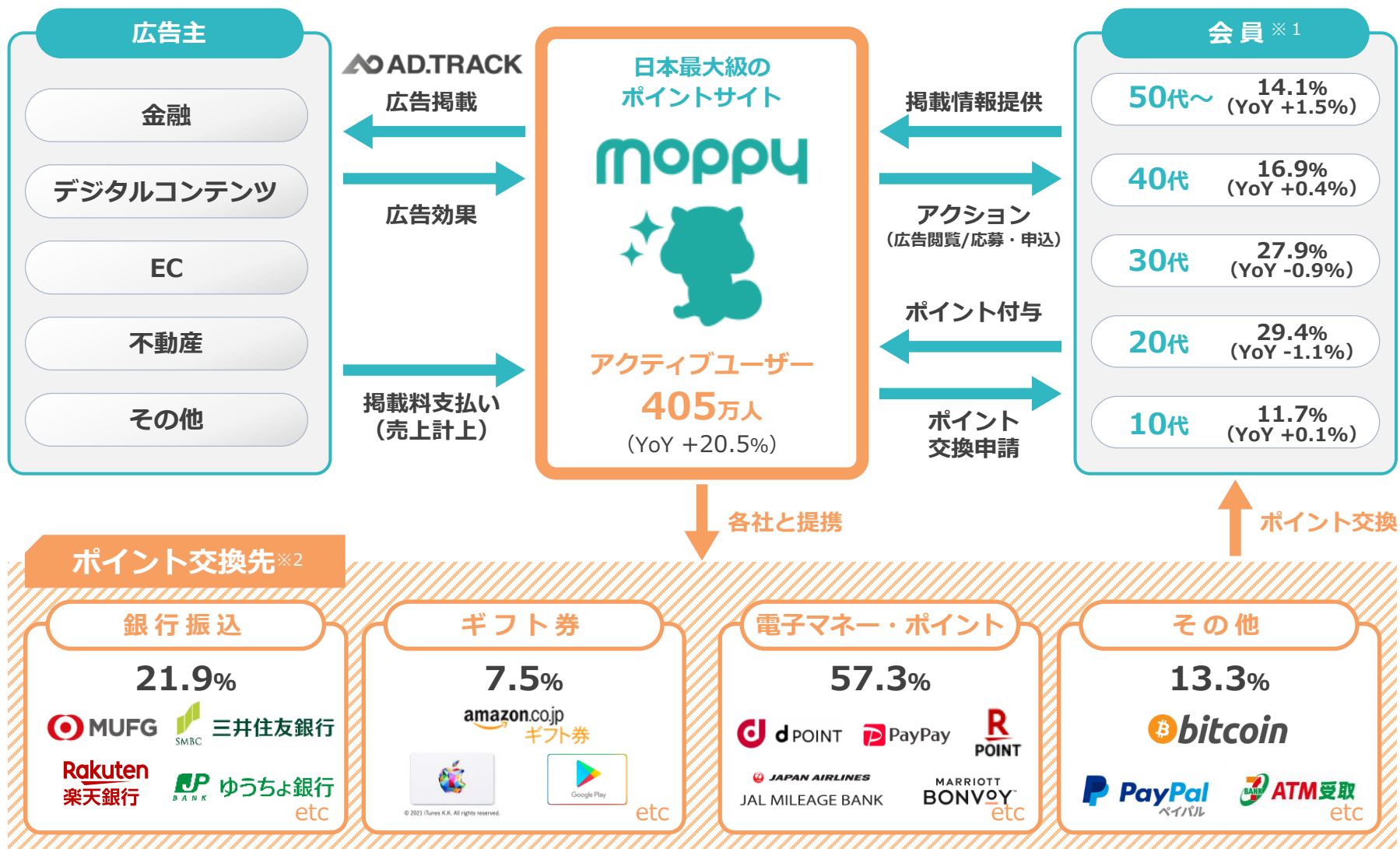


ポイント・D2C・DXが順調に推移し過去最高の売上高に 営業利益はモッピー増益もDXの採用投資を強化し前年同期比15.8%の減益



※ セグメント内の内部売上高又は振替高については、グラフに与える影響が軽微のため表記しておりません。

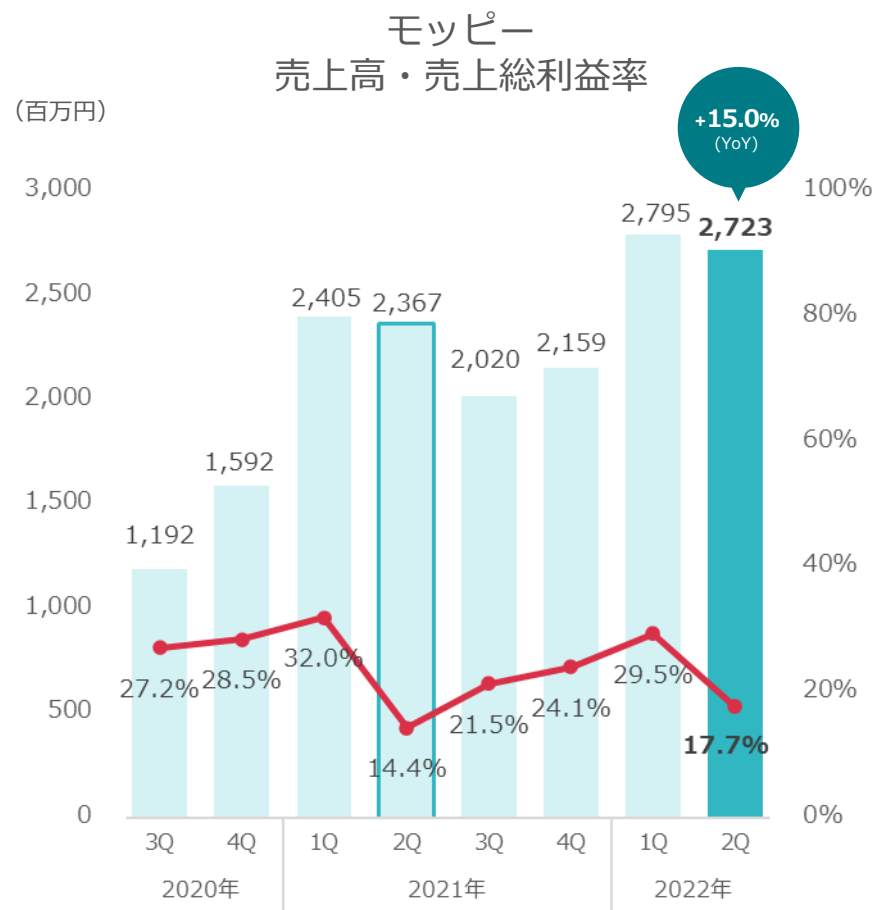
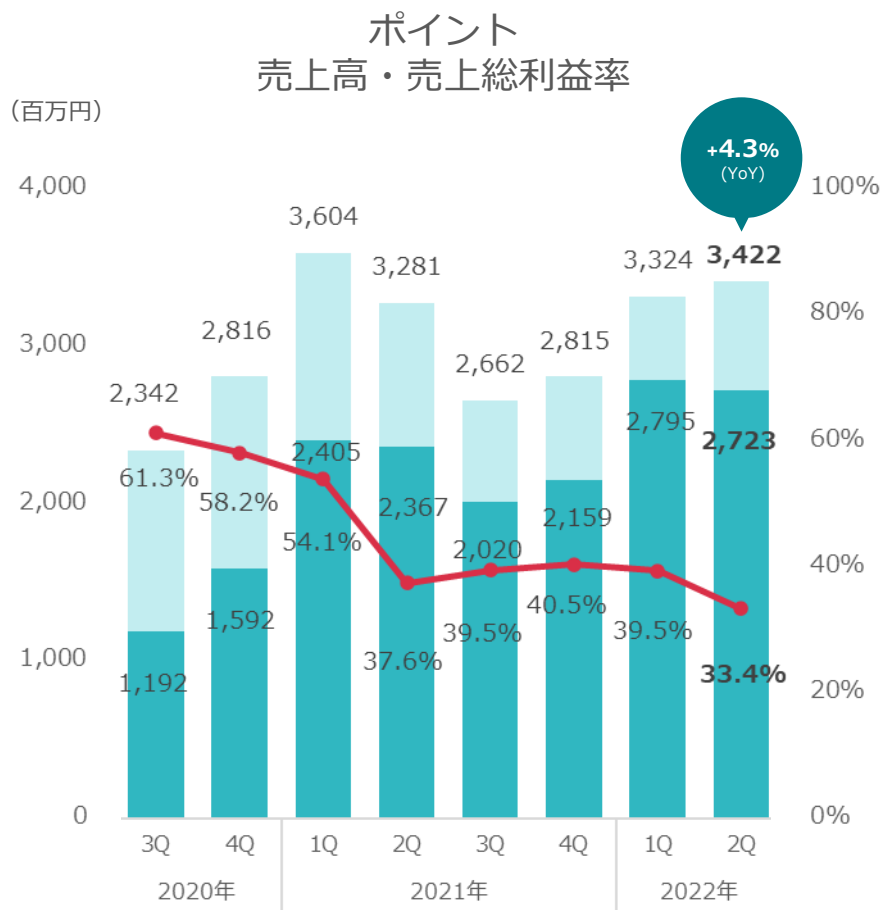
モッピーについて



※1 2022年6月末日時点の割合

※2 2022年4~6月に発生したポイント交換割合

ポイントはモッピー好調も他事業が伸び悩み前年同期比4.3%の増収
 モッピーは広告単価の高い金融案件の増加により好調に推移し増収増益

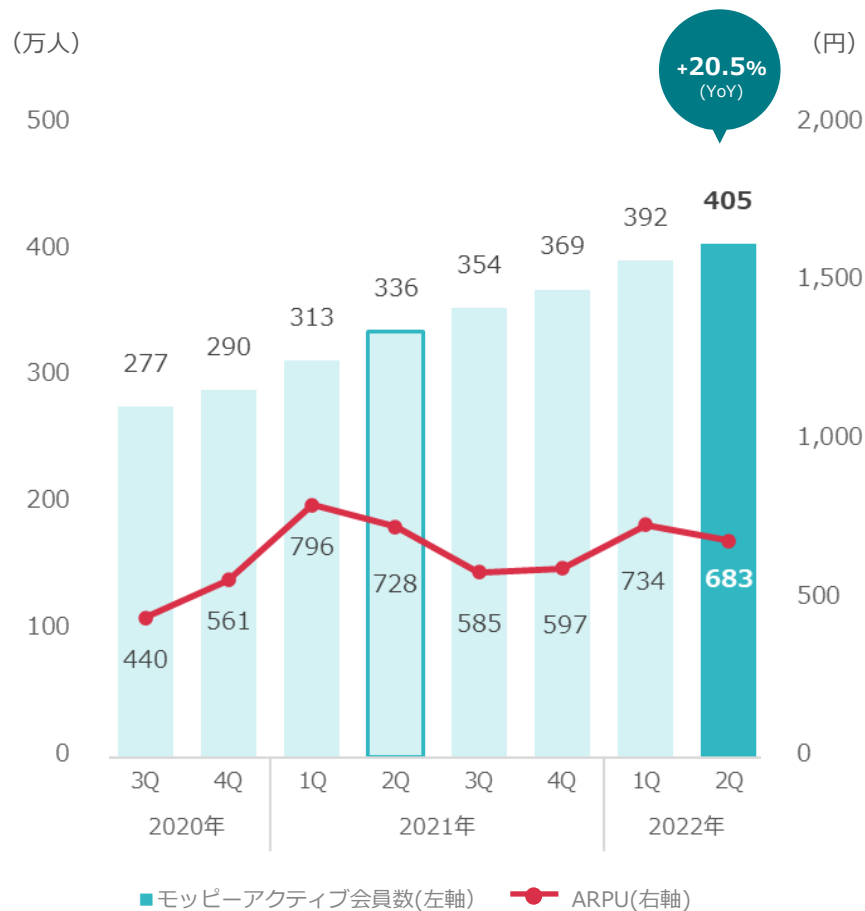


■ モッピー売上高(左軸) ■ その他売上高(左軸) ● 売上総利益率(右軸)

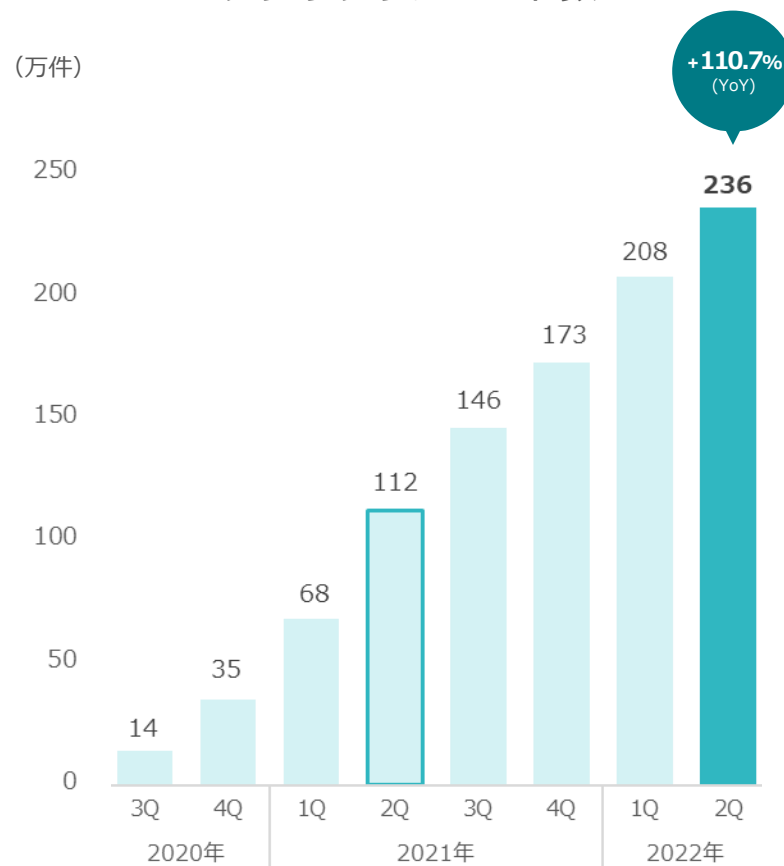
■ 売上高(左軸) ● 売上総利益率(右軸)

モッピーアプリの浸透によりアクティブ会員数は400万人を突破 2020年7月のアプリ提供開始からダウンロード数は合計236万へ

アクティブ会員数・ARPU

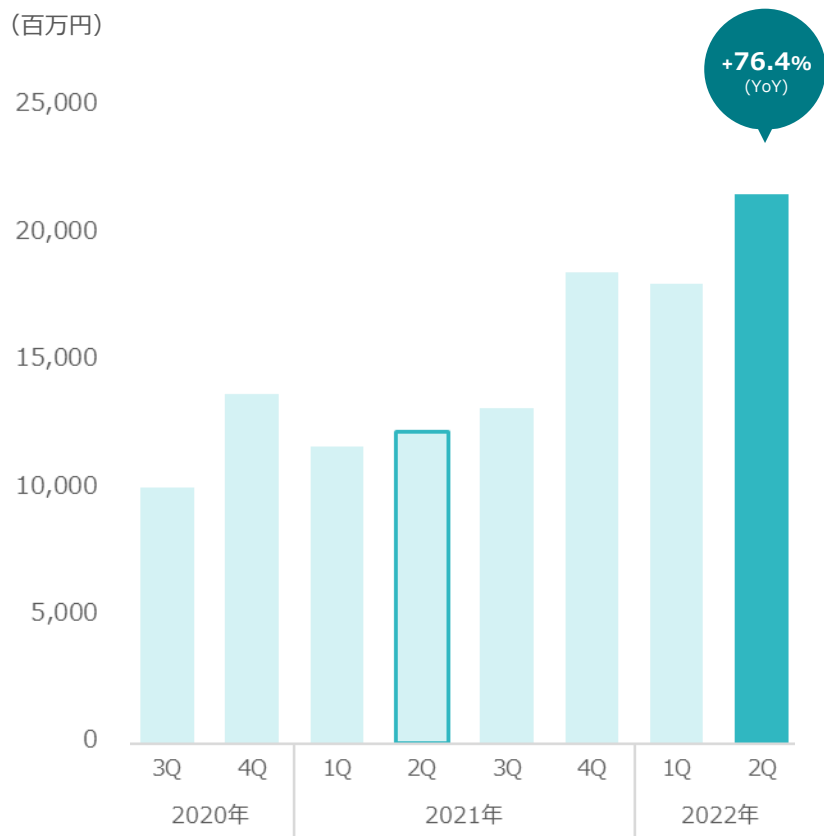


アプリダウンロード数



EC関連物流額はコロナで停滞していた旅行需要が回復し過去最高額を更新 ARPUの向上を目的に9月1日からモッピーに会員ランク制度を導入予定

EC関連物流額



会員ランク制度の導入



- 一定の条件を満たすとゴールド会員にランクアップ
- 月額EC利用に対しボーナスポイントを付与

EC利用率の向上により
アクティブユーザーを確保

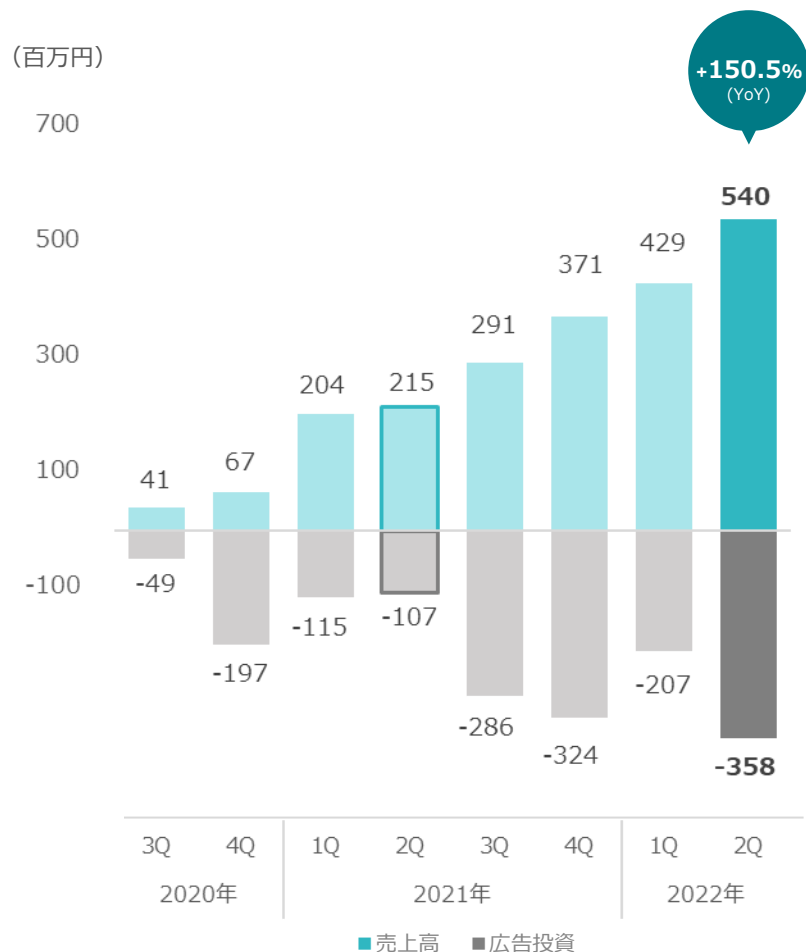


MAUの増加によりサイト内の
掲載広告への接触回数の増加

広告利用アクション数の増加により
ARPUの向上

売上は美容と健康食品のクロスセルが顧客ニーズにマッチし約2.5倍に増収 広告効果の改善と在庫不足の解消が徐々に進んだことで広告投資が加速

売上高・広告投資



ブランド戦略

- 商品ラインナップの拡充で「エトワールボーテ」ブランドは3商品の展開に
- ブランド力の確立を目指し、今後も商品投入予定



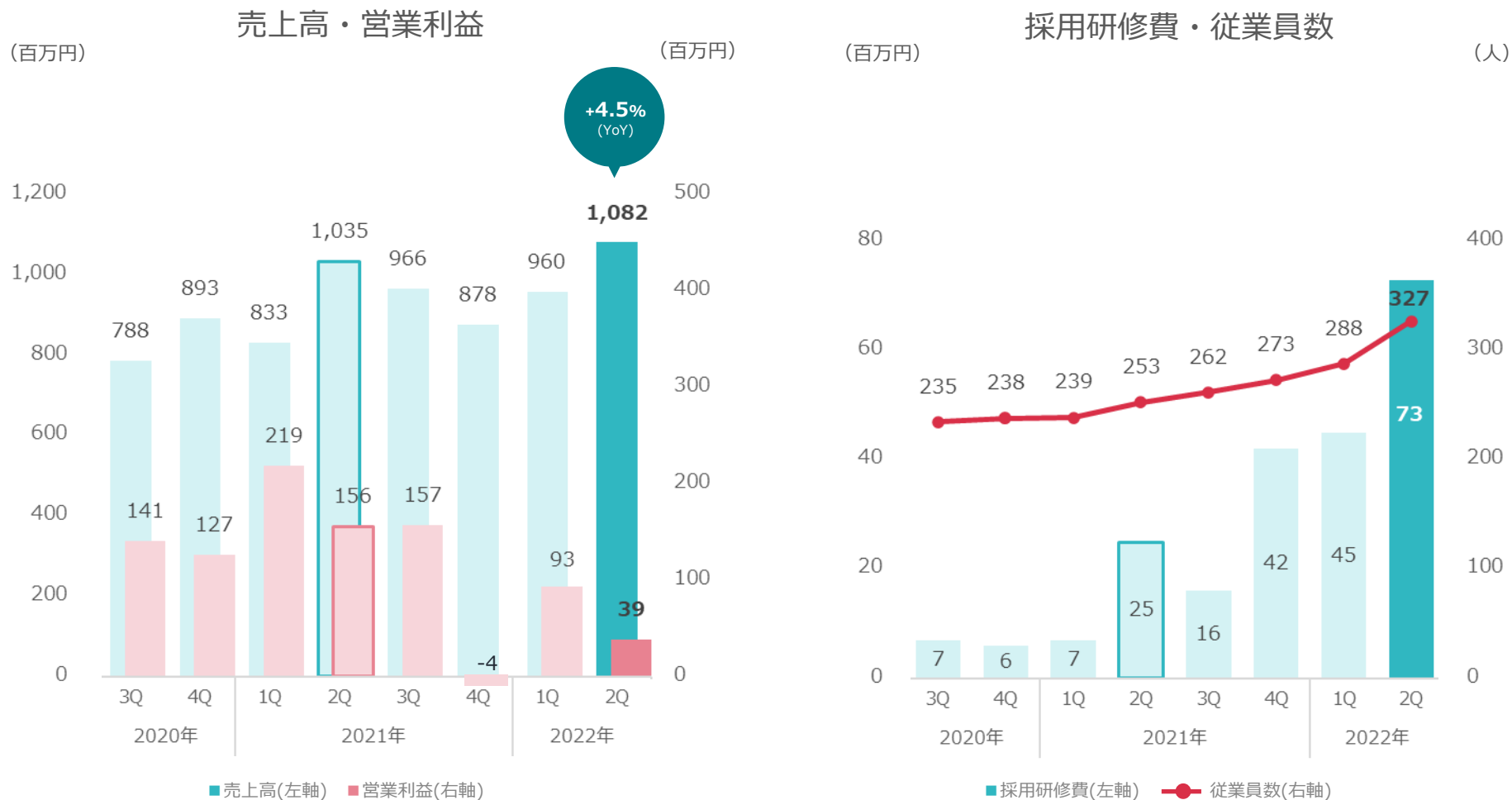
クロスセル促進 ▶ 美容コスメ × 健康食品

トータルでブランドを育成

- クロスセルをしやすい商品の拡充
- 認知度向上を図るため広告投資の推進



DX市場活況により新規顧客獲得で過去最高の四半期売上高を達成 新卒増による一時的な稼働率悪化と採用研修費増で前年同期比で営業減益



企業の認知向上に向け魅力的な会社制度導入でエンジニア企業ランクは10位に 中長期的な成長へ向け労働生産性の向上と新卒採用の強化を推進

原価率の悪化要因

- 新卒入社で稼働率が低下
- クライアントの一部案件で利益率が低下
- パートナー会社への業務委託が増加

- 案件における原価構成を見直し
- 新卒のプロジェクトアサインの短期化

エンジニア採用の強化

- 中長期的な成長に向けた採用活動の強化
 - ▶ 新卒採用を重点的に拡大
 - ▶ 企業文化の認知向上を目指しニュース配信を強化
- 参考** | エンジニアが選ぶ開発者体験が良いイメージのある企業ランキング10位にランクイン

- 年次100名以上の採用達成レベルを目指す

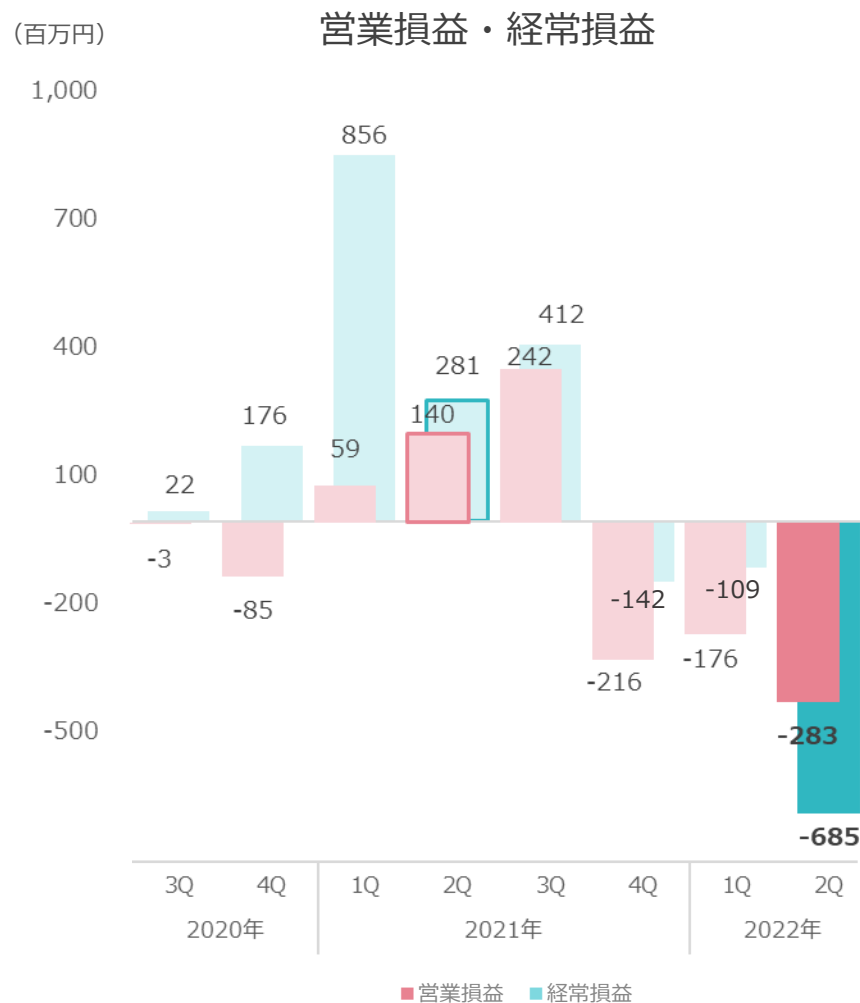
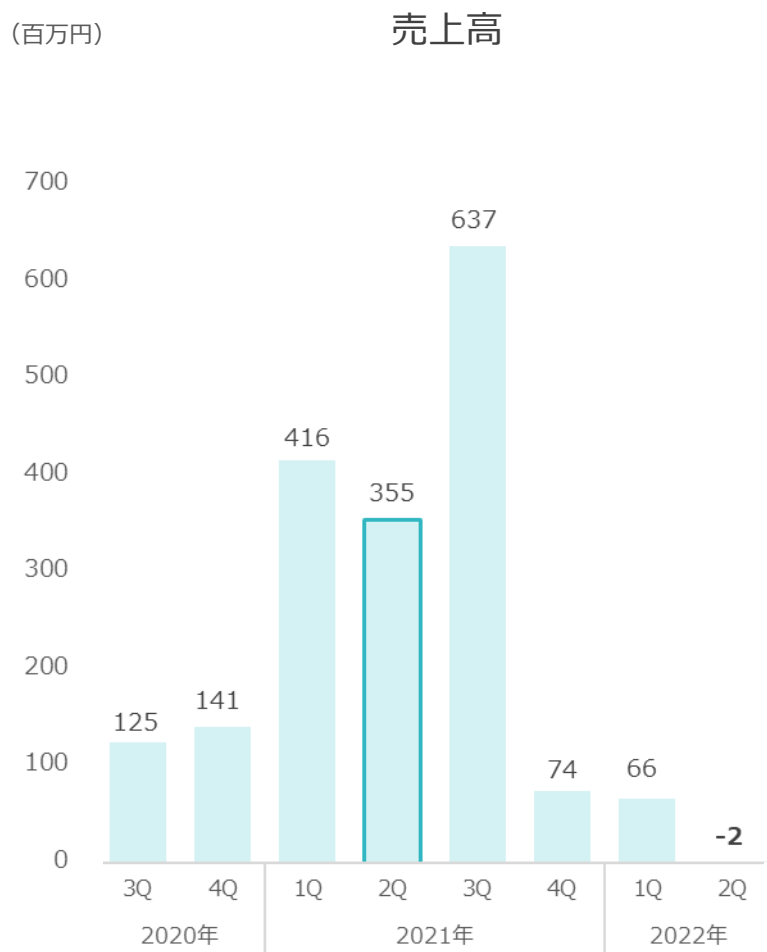
エンジニアが選ぶ開発者体験が
良いイメージのある企業ランキング

「Developer eXperience AWARD 2022」

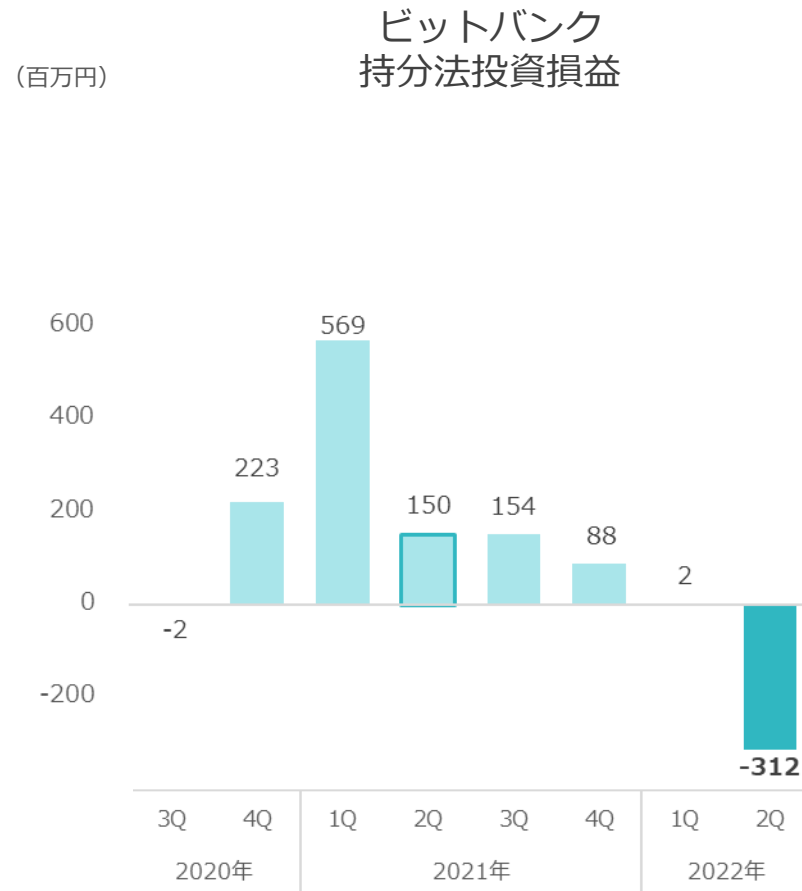
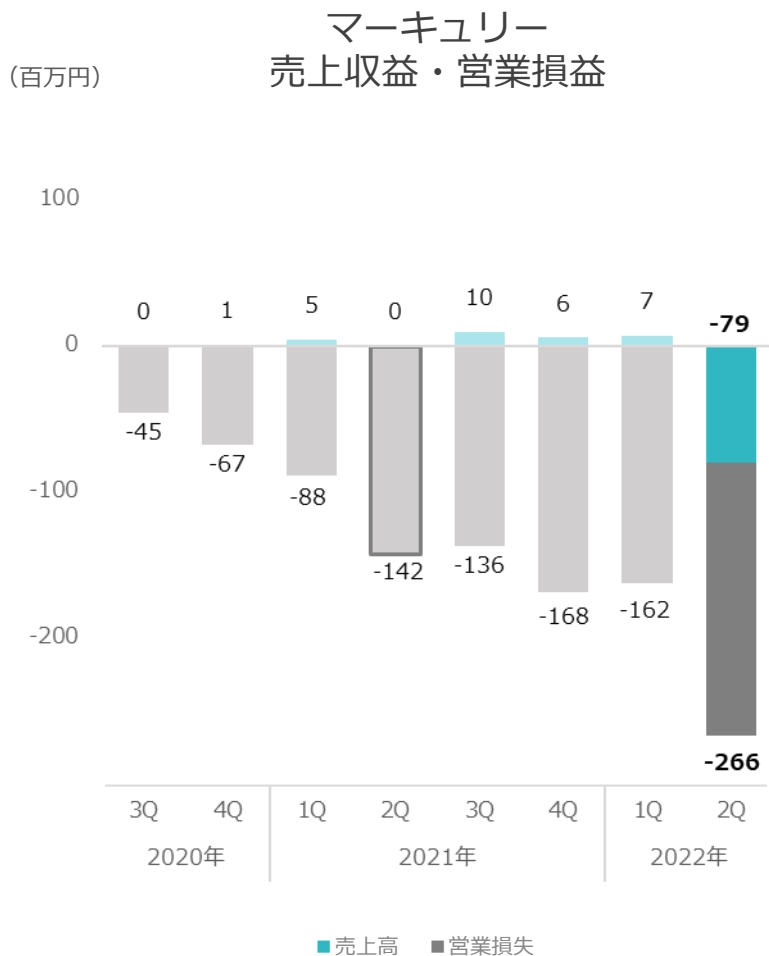
1位	株式会社メルカリ
2位	Google LLC
3位	LINE 株式会社
4位	ヤフー株式会社
5位	株式会社サイバーエージェント
6位	サイボウズ株式会社
7位	株式会社SmartHR
8位	Microsoft Corporation
9位	株式会社ディー・エヌ・エー
10位	株式会社ゆめみ

※ 日本CTO協会： <https://cto-a.org/news/2022/05/12/7631/>

アーンアウト剥落に加え暗号資産の下落によりセグメント売上はマイナスに ビットバンクにかかる持分法投資損益▲312百万円等により経常減益



マーキュリーは暗号資産の下落の影響で売上が▲79百万円に 暗号資産のステーキングサービス開始に向けた先行投資により営業損失が拡大



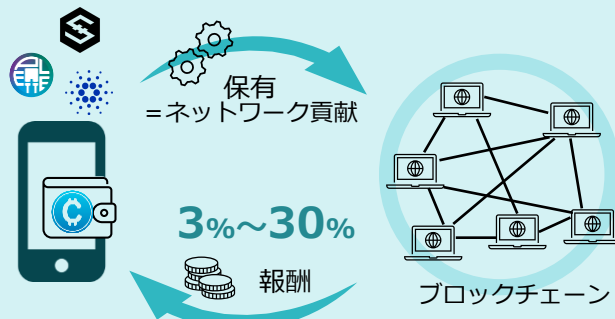
新たにPLT・IOST・ADA 3通貨の取扱いを開始 新たな収益の軸となるステーキングサービス「CoinTrade Stake」をスタート

- ステーキングとは暗号資産を預けて、ブロックチェーンのネットワークに参加することで、対価として報酬が貰える仕組み

日本の資産運用手段の年利(一例)

定期預金	0.002%
外貨預金	0.01%
個人向け国債	0.1%

ステーキング



ステーキングで得られる報酬は日本の資産運用手段の最大**1500倍**



PLT
パレットトークン
年間想定利回り
10%~30%



IOST
アイオーエスティー
年間想定利回り
5%~12%



ADA
エイダ
年間想定利回り
3%~7%

近日
リリース



DOT
ポルカドット
年間想定利回り
5%~10%

※ 記載されている年間想定利回りは目安となります

ステーキングの市場規模

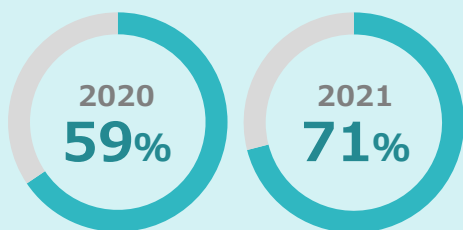


出典：「The State of Staking Q4 2021」
Stated | Kraken

ビットバンクと三井住友トラスト・ホールディングスはデジタルアセットに特化した信託会社「JADAT」に関する基本合意書を締結

世界のデジタルアセット市場の成長率から見るカストディの重要性

北米 / 欧州



- デジタルアセットの時価総額は250兆円超に成長（2022年1月）
- 本格的なアセットクラスの一つとして世界的に認知が広がる
- 機関投資家からの投資も加速傾向
- 欧米機関投資家の71%が将来的にデジタル資産への投資を予定

出典：「将来的なデジタルアセットへの投資意向」
Fidelity Digital Assets/THE INSTITUTIONAL INVESTOR DIGITAL ASSETS STUDY

日本デジタルアセットトラスト設立準備株式会社（JADAT）

JADAT

日本デジタルアセットトラスト設立準備株式会社

2社の強みを融合し共同で設立した、デジタルアセット（暗号資産をはじめとするパブリック型ブロックチェーン、セキュリティトークン、ステーブルコインおよびNFT等）の資産管理サービスを行う信託の準備会社。



提供サービス

- ファンド
- 機関投資家
- 事業法人



管理



JADATの特徴

Technology	暗号資産管理ノウハウと実績
Operation	信託業務ノウハウ
Security	Cold Wallet、HSM、マルチング、DR
License	管理型信託
Compliance	3線ディフェンスの導入
Audit	外部監査、SOC取得など
Insurance	コールドウォレット保険加入

売買



暗号資産取引所 など

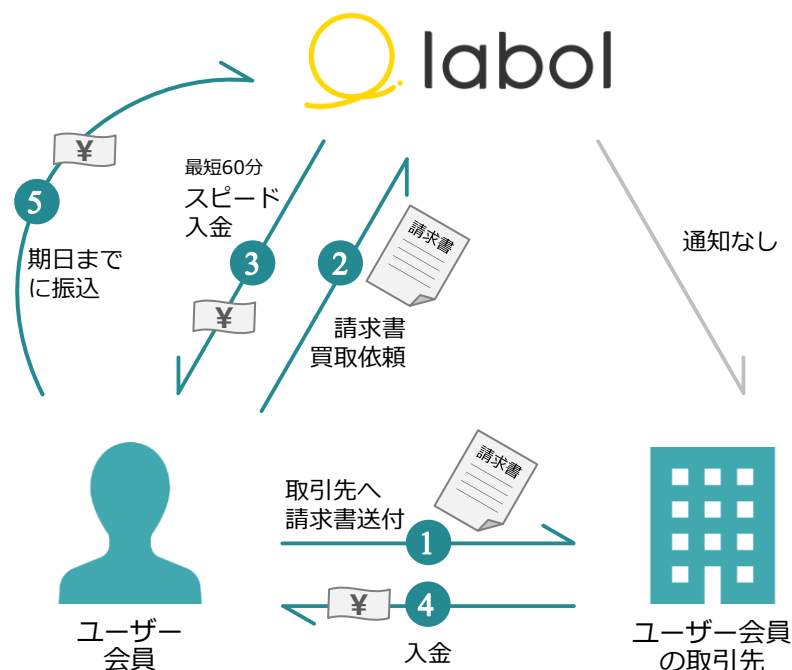


潜在成長力の高いフリーランス市場を背景に請求書買取額を順調に拡大 AI・DMPを活用した審査機能の拡充を図り効率化と収益性の向上を目指す

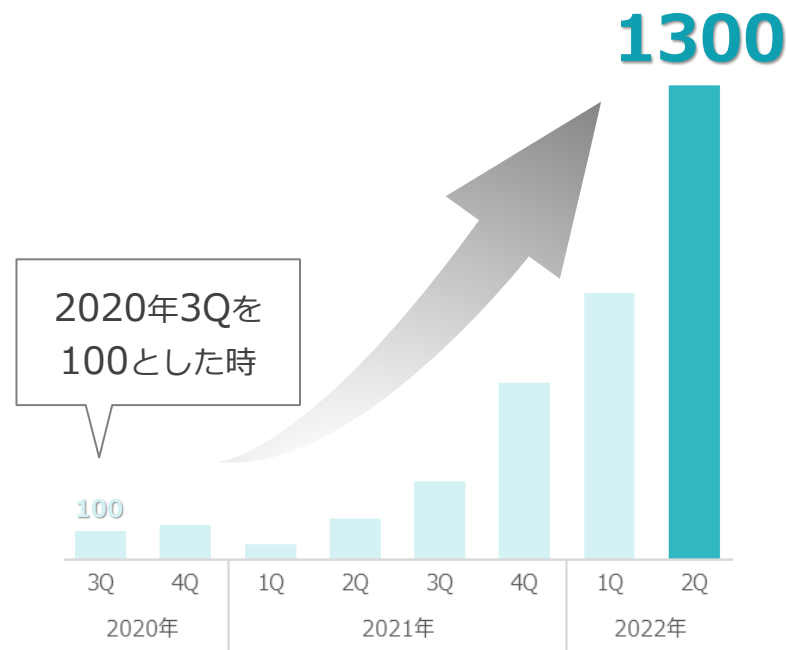
請求書買取サービス「label (ラボル)」

個人事業主・小規模事業者向けの報酬を即日先払いする請求書買取（二者間ファクタリング）サービス「label (ラボル)」

<サービス概要図>



ラボル買取金額の成長率



HashPortは「Web3.0」時代の到来に向けSMBCグループとNFT関連で協業 マーキュリーの「CoinTrade」とGINKANの「シンクロライフ」が提携

(2022年6月末)



モバイルサービスと連携

メディア・D2C関連

DINÉTTE

User Like



flicfit



PETOKOTO



ZEROU M

1SEC

フィナンシャルサービスと連携

フィンテック・ブロックチェーン関連

Infcurion



sivira

BRD

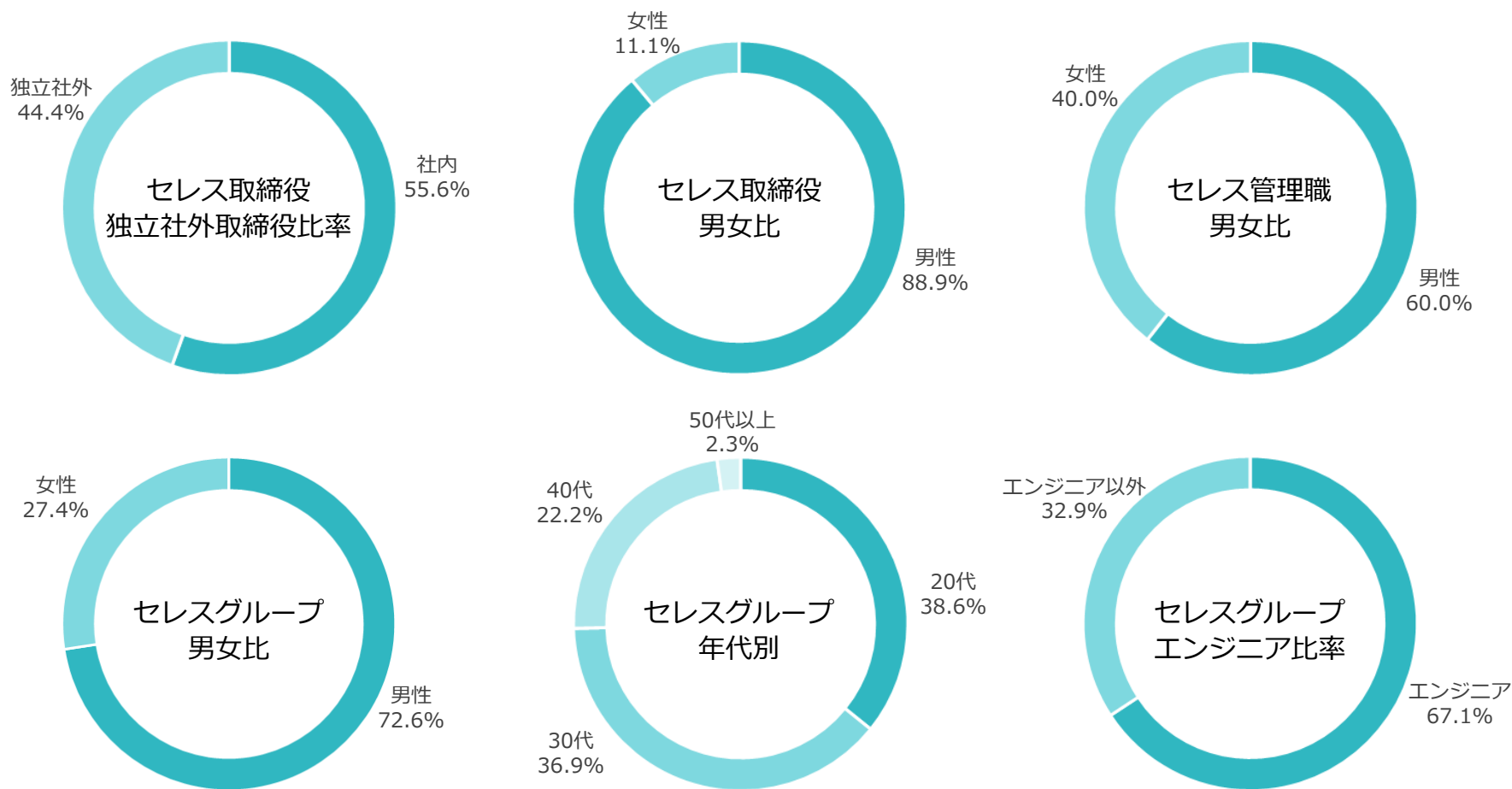
CAMPFIRE



イークラウド

IT Realize

コーポレートガバナンスの取組強化により中長期的な企業価値増大へ持続的成長のためにジェンダー平等などダイバーシティの充実を推進

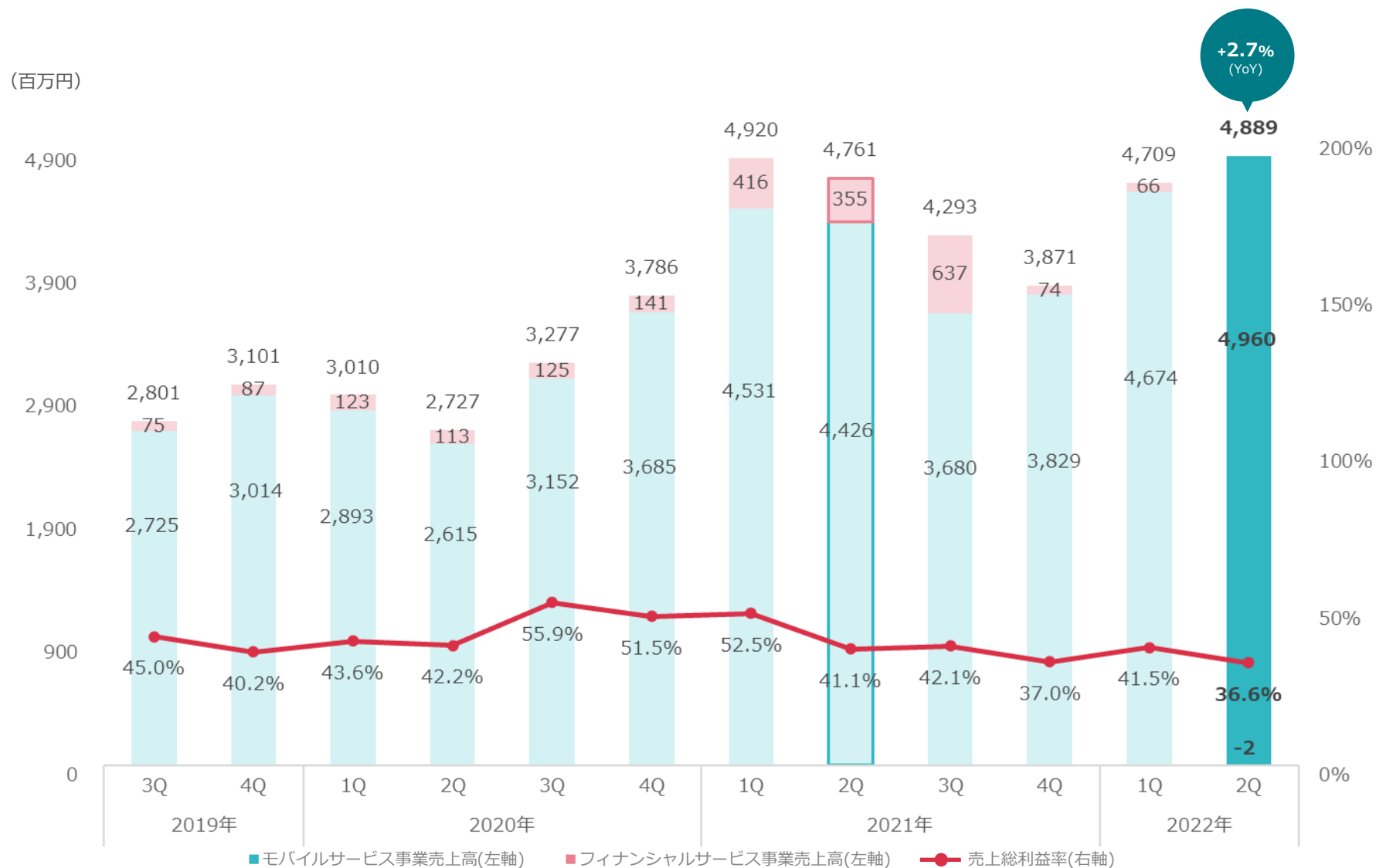


※ データは2022年6月末時点



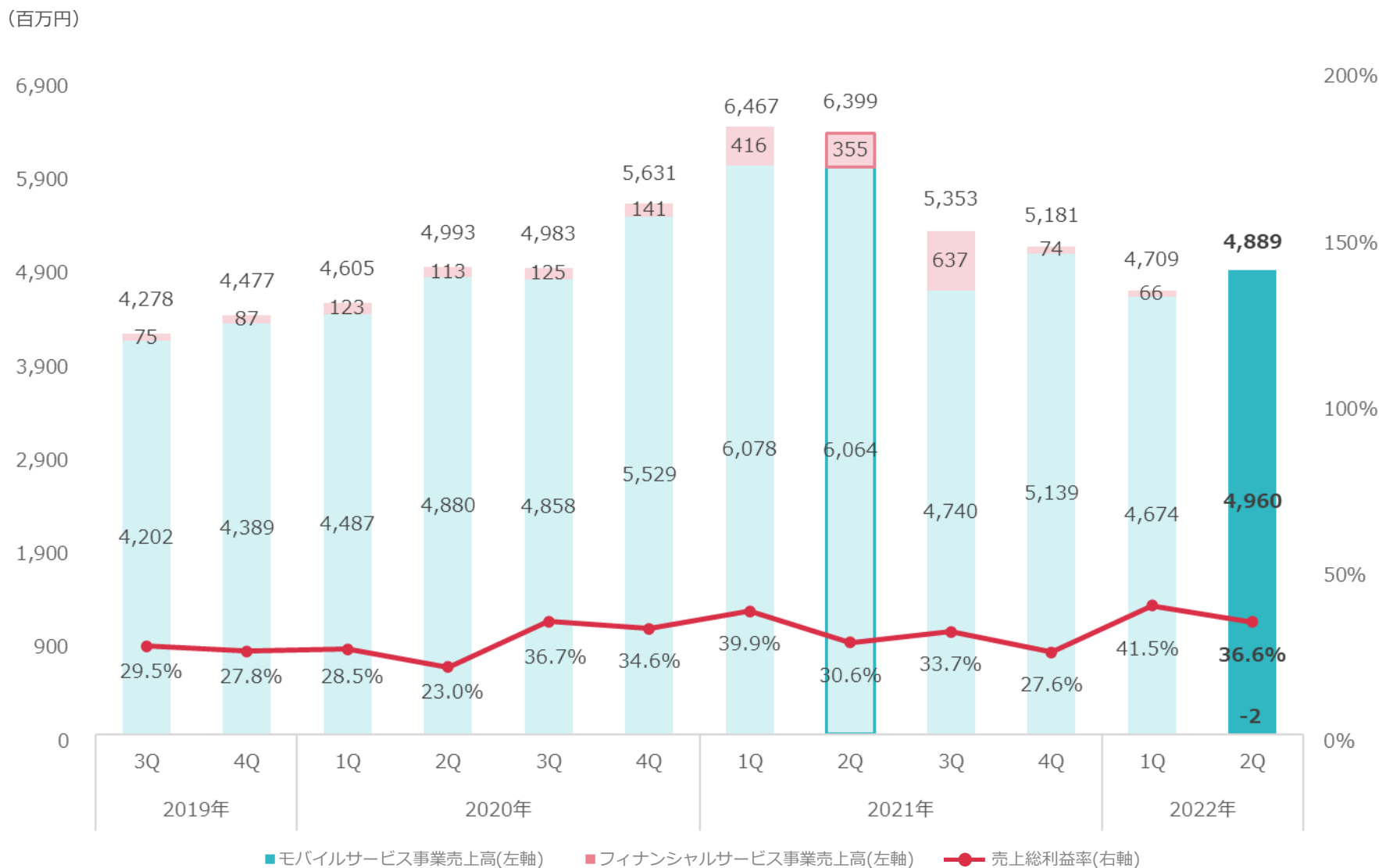
4 . APPENDIX

四半期売上高推移（過去数値に新収益認識基準を適用）



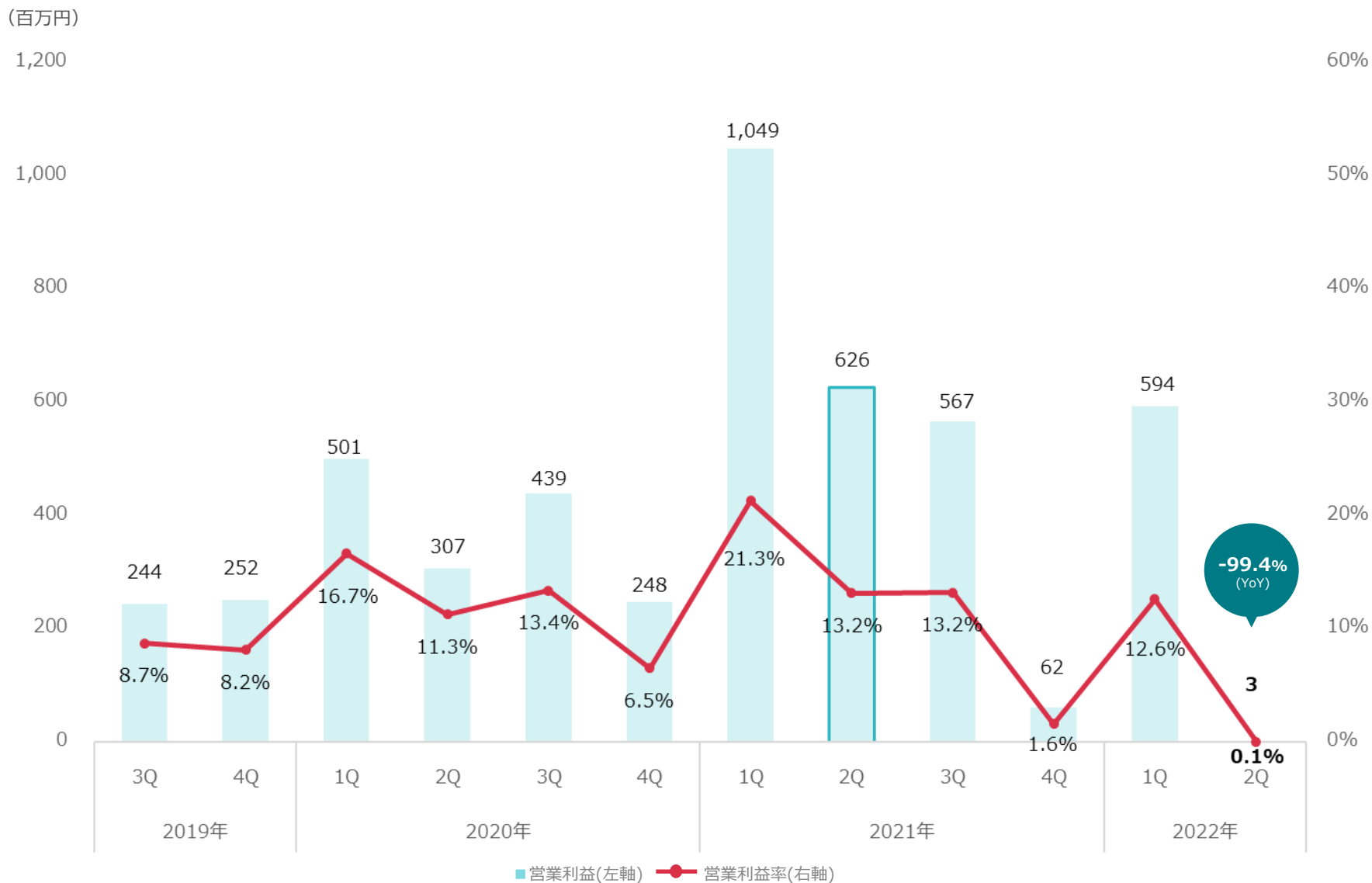
※ セグメント間の内部売上高又は振替高については、グラフに与える影響が軽微のため表記しておりません。

四半期売上高推移（有価証券報告書）

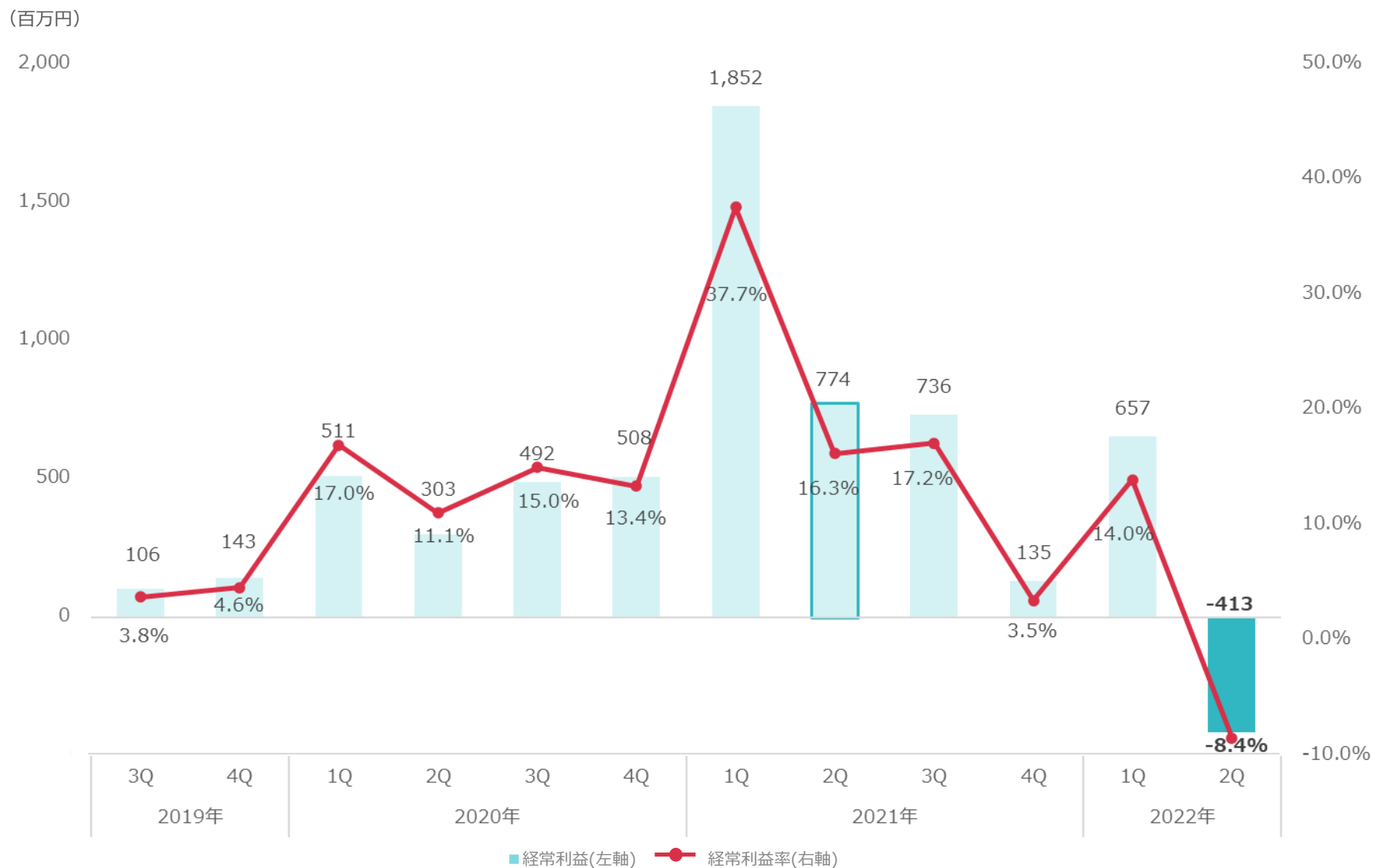


※ セグメント間の内部売上高又は振替高については、グラフに与える影響が軽微のため表記していません。

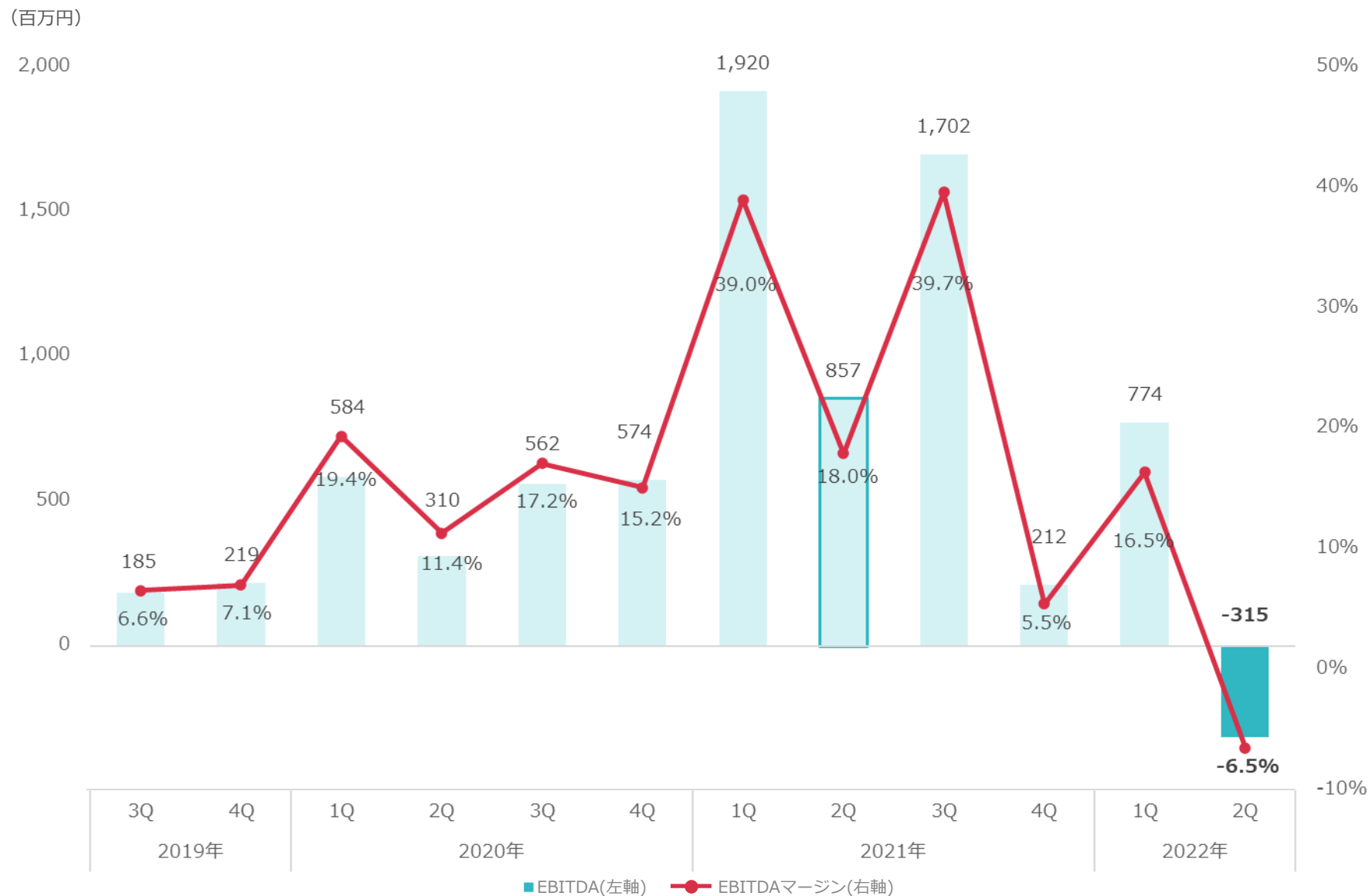
四半期営業利益推移



四半期經常利益推移

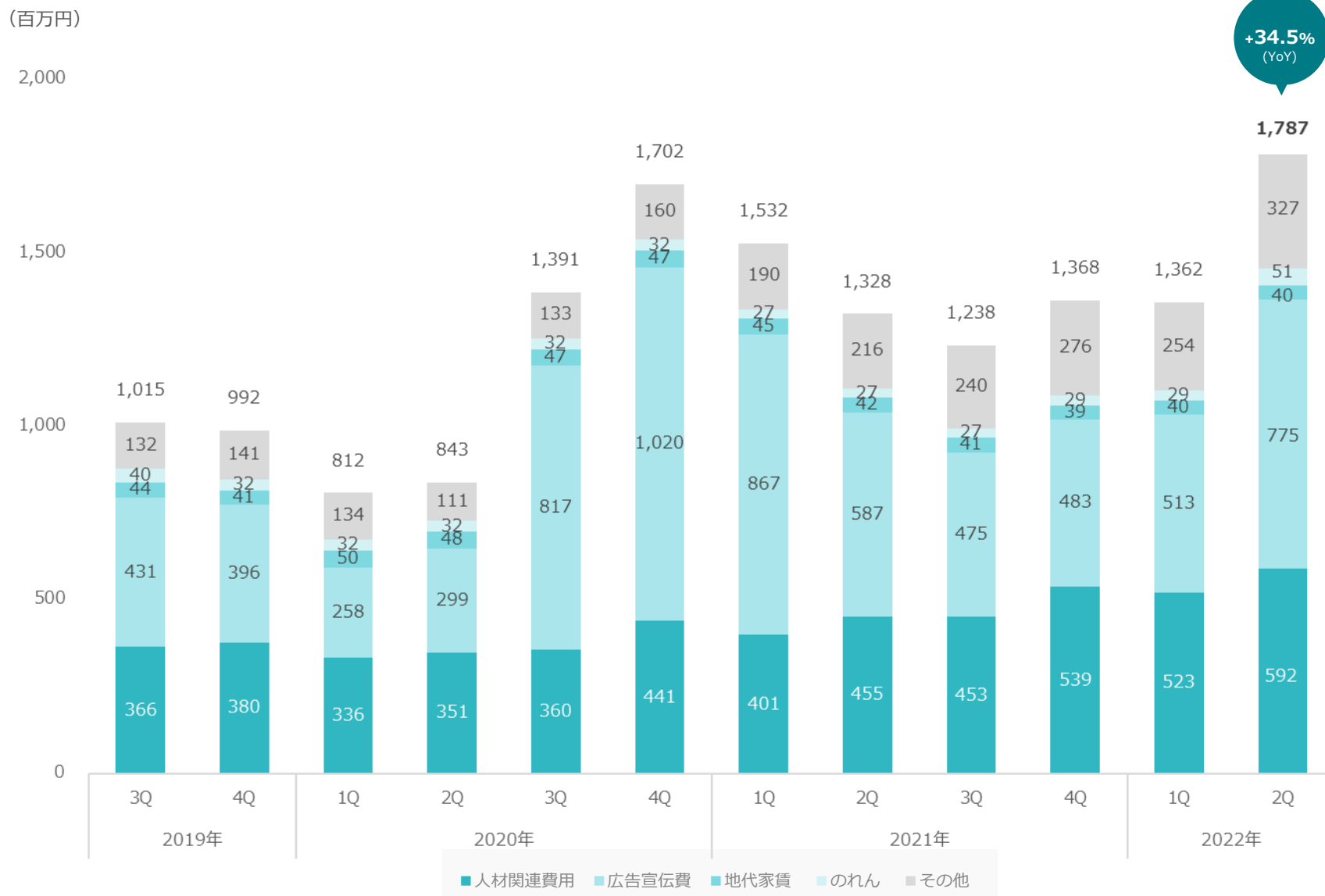


四半期EBITDA推移



※ EBITDA = 税金等調整前四半期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 減損損失

四半期販売費及び一般管理費推移



従業員数推移



※ 契約社員、派遣社員、アルバイト は含まず

四半期売上高

(単位：百万円)	2020年		2021年				2022年	
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	3,277	3,786	4,920	4,761	4,293	3,871	4,709	4,889
モバイルサービス事業	3,152	3,685	4,531	4,426	3,680	3,829	4,674	4,960
ポイント	2,342	2,816	3,604	3,281	2,662	2,815	3,324	3,422
D2C	41	67	204	215	291	371	429	540
DX	788	893	833	1,035	966	878	960	1,082
セグメント内の振替高	-20	-91	-111	-106	-240	-236	-39	-84
フィナンシャルサービス事業	125	141	416	355	637	74	66	-2
セグメント間の内部売上高又は振替高	-0	-40	-27	-20	-23	-32	-32	-68

四半期営業利益

(単位：百万円)	2020年		2021年				2022年	
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
営業利益	439	248	1,049	626	567	62	594	3
モバイルサービス事業	670	557	1,231	698	556	533	1,007	588
フィナンシャルサービス事業	-3	-85	59	140	242	-216	-176	-283
調整額	-227	-223	-242	-213	-231	-254	-236	-301



将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。